

世界の中心は、 自分の心中に…

地球が営む自然と私達人間の心には何か関係があるのでしょか？昨年続けて発生した台風や地震など、大規模な災害と私達の心のあり方に関係があるとすれば、私達1人1人が地球上で起こっている出来事に対して、何らかの責任を持つているということになります。近年悲惨な事件が急増しています。日本は犯罪多発国家になってしまいました。この事を憂慮し、心を痛められている方も多いと思います。何だか住みにくい世の中になってしまったなあ…。これは政治が悪い？そうかもしれません。社会が悪いのでしょうか？それも然りですね…。しかしよく考えてみると、この社会を構成しているのは私達1人1人ですね。

と考えるのはエゴイズム(自己中心主義)です。エゴイズムは、「世の中は悪いが、自分だけは正しい」という独りよがりの考え方をします。これを「**個人成仏**」としても名付けましょう。では何をもって成仏と言うのでしょうか？**成仏とは、つまり仏様と同じ心を持つこと**であります。仏様の心とは何でしょうか？仏の心とは、自然の恵みを感じる心、悲しみを感じる心、歓びを感じる心、間違いを正す勇氣、愛深い言葉、無償の行為…。私達が持っている沢山の心、そしてその心さえあれば、その心から発する誰にでも出来る、仏様の様な行動はいくらでも出来ますよね。その心を持つことよって、人を傷つける様な無駄な争い事も起こりません。争いとは、いずれも自分だけの都合を考え、「**共に幸せになる**」という基本を忘れたところから起こります。自分という個人を越えて、国家や民族、排他的宗教のエゴが表面化すれば、戦争は簡単に起こります。

お釈迦様の教え(サンユッタ、ニカーヤ)の中に「心の中で、どの方向に探し求めてみても、自分よりも更に愛しいものはどこにも見出せなかった。その様に他の人々にとっても、それぞれの自己が愛しいのである。それ故に、自己を愛する人は他人を害してはならない」という教えがあります。

『**自己を愛する人は他人を害してはならない**』：他を害することよって自分が安穩になり、自己の欲望が満足できるような考え方をする現代人の多くにとつては厳しい教えですが、しかし私は、ここにしか真の平和の基点は有り得ないように思います。

自分だけでは幸せになれないのは、誰の目にも明らかです。共に人生を成就するという考えと行動こそ最も大事なことであります。私達の生命は両親を通して遠く祖先に繋がっています。肉体は一代限りで大自然に帰っていきますが、その本体となつている生命は常住不滅です。**信仰をすることは成仏を目的としています。**それも死んでからの成仏という不確かなものではなく、この世に現に生きながら、仏の境地を味わうことが真の成仏なのであります。

祈りは、幸福の願いを神仏に訴えて、神秘の加護を乞う振る舞いであるといえますでしょう。その願いは条件付きで必ず聞き届けられます。この世のことは全て何事に限らず、人間の力で解決することが原則です。ですから自分の力で出来ることを完全に果たした上で、なおかつ救われたい不運に限って、神仏の救いの手にすがることが許されます。世の中には神仏の加護を信じない者がいます。何でも理詰めに物を考えると、因果の法則と道理だけが一切を支配しているように思います。そうして冷厳な気持ちを養い、それが正しい事の様に思い込みます。

ただその考え方には大きな見落としがあります。この世を動かしているのは我々の心、そしてその行動である事は前述した通りであります。

「**徳は孤ならず、必ず憐れみあり**」と、言う言葉がありますが、人間同士の場合は徳という相互の行いが条件になつて、助け合いをする愛情を含んだ心が生まれるのです。それに比べ神仏の場合は相互条件がないのです。人事を尽くして祈れば、大きな愛情が必ずその人を温かく護つて下さいます。この事実は各々の体験によつて実感することが出来ます。神仏に通う信仰があれば人間同士の愛情を培う悟りが生まれ、悟りがあればその悟りに応じた行いが自然に現れてきます。**人間の幸福のほとんどは、その全てが心から発する、その行いから生まれるのであります。**真の幸福を感じる為に、互助の

精神を忘れず精進しましょう。

合掌

副住職 谷川 寛敬

